

令和3年度病害虫発生予察指導情報（ネギ疫病）

令和3年7月9日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

7月7日を中心とした豪雨の影響で県下全域のほ場で冠水が見られます。
ネギ疫病の発生が増加するおそれがありますので、ほ場の観察を徹底し、計画的な防除を行いましょ

2 情報の根拠

(1) 本病の発生生態と症状

本病は、梅雨期～初秋期（6～9月）の28～30℃程度の気温で降雨が多いと発生しやすく、台風や豪雨があると激発する。苗や若葉で発病しやすく、灰緑色水浸状から黄白色になる比較的大型の斑点を生じ、雨天が続くと病斑上に白色の菌糸を薄く生じてその先が枯死して垂れ下がる（写真1、2）。

(2) これまでの気象経過から、今後本病の発生量が増加すると予想される。



(写真1 圃場の発病株)



(写真2 発病株)

3 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場が冠水したり、本病発病が見られる場合は、薬剤防除を徹底する（表）。
- (2) 農薬使用に当たっては、使用基準を遵守するとともに、適正使用、事故防止に努める。

表 ネギ疫病に登録のある薬剤

農薬の名称	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	有効成分	FRACコード
アリエッティ水和剤	800倍	収穫3日まで	3回以内	ホセチル	P07

登録内容は令和3年7月8日現在